

活動テーマ

「若者参加による地域のにぎわいづくり」

横瀬町全域地区 立教大学観光学部

1 活動目的

観光学部の学生という視点で地域の方々と協力してイベントを行い、より多くの観光客を町外から呼び込み、横瀬町の魅力を知ってもらう。また、町の人々と協力することで地域の活性化を促す。

今年度は人の接触制限等を踏まえ、参加者の主体性を促すあるいは今後の訪問のきっかけとなるような活動を目的とした。

2 活動地域の現状

横瀬町は人口8000人強で、面積は50平方キロ足らず、人口密度は166人で都下西多摩郡に相当する。都内から70キロ圏内で町外での三次産業従事者が6割を超える。秩父域内の他地区同様、65歳以上の高齢化率は3割を超え、対策が急務である。

観光が盛んな秩父の隣にあるこの地域では交流人口の多い傾向にある。特に冬のあしがくぼ氷柱では実に多くの人がこの地域を訪れる。イベントの日程には西武鉄道の特急が停車するようになるなど交通関係の連携もできている地域だ。「日本一あるきたくなるまち」というテーマを掲げ、まちづくりや発信を強化している。コロナウィルスの影響が続いているとはいえ、マルシェの再開やチャレンジキッチンEngawaのプロジェクトが始まるなど積極的に活動を続けている地域でもある。

3 活動内容

○地域イベントスタッフ

- ・春マルシェ(5月30日)
- ・夏の自由研究スタッフ(8月日程を分けて開催)
 - アドベンチャー気分満喫！自然観察指導員と行く自然を感じるプロジェクト
 - ドローン操作体験
 - 写経座禅体験
 - SDGs縁日

○イベント企画&参加

- ・夏の自由研究:あつまれ! 学びの森in発明キャンプ(8月15日)
- ・秋マルシェ(11月21日)
- ・あしがくぼ氷柱:氷chu♡バレンタイン(2月12~13日)

4 成果

○地域イベントスタッフ

本年度は昨年のイベントに追加してマルシェ等の活動にも参画することができた。横瀬の自然や歩くことの魅力を発信する機会を提供することができた。受付等の業務に加え参加者とのコミュニケーションがよく取れていたと感じる。参加された方の声を直接聞く機会が多かったため今後も積極的なコミュニケーションを継続しゲストの声を拾いながらイベントの改善や提案に務めていきたい。

○イベント企画&参加

体験型のイベントを重視するだけでなく、学ぶ・知るきっかけを提供することができた。特に夏の自由研究イベントでは知識や仕組みを文字化し形にすることでイベントでの体験を持ち帰ることができるように意識した。また身近なものを使用したことで帰ってから本イベントの学びを広げることができるように努めた。普段通う学校とは違う環境での学びは参加者の印象に残るものだったと感じる。今後はここに地域性を絡め、参加後にも横瀬町と関わる機会を提供していきたい。

5 課題

○地域の方との業務面での連携

反省点の中に連携不足という言葉がよく見られた。コロナ禍ということもあり学生同士だけでなく地域と学生のコミュニケーションの場を設けることが難しくなっている。今後は対話することで意思決定を行う必要がある。またこの連携はイベント前だけでなくイベント後の反省にも活用するべきだろう。次につながるようなコミュニケーションを常に意識していくべきだろう。

それぞれ鉄道駅を持つ芦ヶ久保地区、横瀬地区それぞれの活動であるにもかかわらず、横瀬町全域という設定のため、無理が生じている点もあり、地元から指摘を受けたこともあった。

○自主企画の内容

毎年あらゆる角度からの企画を行っているが、形式がコロナ前と変わらない企画が多い。ニュースタイルが浸透してきている世の中だからこそ、今後は感染対策だけでなく企画の実施の仕方自体などにも革新があってもよいのではないか。事前準備を怠らず新しいことにより挑戦していく内容を企画し続けたい。

○歩きたくなるまちとしての認知度

あるきたくなるまちというテーマに沿って横瀬町ではウォーキングイベントの実施が多い。よってこの街でのウォーキングイベントということに価値を見出している人がいる一方で、このコンセプトをイベントを通じて知るようになったという人があまりいない印象がある。また歩きたくなるためのコンテンツが、同じようなコンセプト地域等とどう違うのか発信または確立させていく必要があるだろう。学生の活動や視線を駆使し、今後はこのコンセプトについて地域の方とより深く検討していきたい。

6 次年度以降の計画

支援隊枠組み有無に関わらず、来年度も関わり方を改善しながら考えていきたい。

○横瀬町マップの電子化(アバター歩き*可能)

*オンライン上の分身キャラクターによるバーチャルまち歩き

○日本一あるきたくなるまちプロジェクトへの協力

○ペットボタルの継続活用

○イベント支援・参加

-春秋マルシェ、夏の自由研究、あしがくぼ氷柱

○その他地域との関わり構築

-インターン、Engawaチャレンジキッチンでの企画

以上

<活動の様子>



なまえ: _____

電気パンをつくらう!

電気パンとは?

ふつう、パンはオーブンなどの放射熱や熱風の対流によって焼けますが、生地に電気を通し、発熱させて焼くのが電気パンです。電気が流れたり、熱が発生するしゅきをまなびつつ、たのしくつくみましょう!

〇つくりかた

- ①ホットケーキミックス100gと水60mlを混ぜる
*ダマがなくなるまで、まぜすぎにも気を付ける。
- ②チタン板を設置した牛乳パックに①を入れる
- ③チタン板にワニ口クリップをはさむ
- ④コンセントをさし、ブレーカーのスイッチをいれる
まこのおとは電線やチタン板にさわらない!
- ⑤生地がふくらみ、湯気が止まるまでまつ(約10分)
- ⑥竹串でさしても生地がつかないくらい、きちんと焼けていたらブレーカーを切る
*コンセントにはさわらない
- ⑦牛乳パックからとり出して完成

- 〇ざいりょう**
- ・電気パンセット
 - ・ホットケーキミックス100g
 - ・水60ml

〇きろく

パン生地のへんかであついたことをメモしよう!

〇電気パンはなぜできる?

- ①電気パンに電気が流れるのは、ホットケーキミックスにふくまれる炭酸水素ナトリウムが() にとけることで電気をとおすようになるから。
→このような炭酸水素ナトリウムの性質を電阻値と言います。
- ②パン生地に電気が流れることで() が発生し、それによって生地にふくまれる炭酸水素ナトリウムが、炭酸ナトリウムと二酸化炭素と水に分解する。そうして、生地の中に() の気泡がたくさんでき、パンがふくらむ。
- ③やきあがったパンには水分がないため、電気が(流れる・流れない)。

